



令和 8 年 8 月 12 日

午前・~~午後~~ 4 時 43 分 受領

議長	事務局長	係
		
愛南町議会議長 吉田 茂生 殿		
愛南町議会議員 金繁 典子		
一 般 質 問 通 告 書		
次のとおり通告します。		
質 問 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
1. 介護保険の住宅改修等を利用しやすくするために 介護保険制度は、介護を必要とする方が必要なサービスを利用できることが重要ですが、昨今の物価高により、特に年金を主な収入とする高齢者の家計が厳しさを増す中、経済的な事情が制度利用の妨げとならないことが、これまで以上に求められています。 手すりの設置や段差解消などの住宅改修費及び特定福祉用具購入費は、原則として利用者が費用を一旦全額負担した後に保険給付分の払い戻しを受ける償還払いとなっています。一時的とはいえ、まとまった費用の全額を用意するのは大変だとの町民の声を聞いており、この負担が制度の利用をためらう要因になりかねません。 こうした負担を軽減する仕組みとして、利用者は自己負担分のみを支払い、保険給付分は自治体が直接事業者へ支払う受領委任払い制度があり、すでに県内でも多くの自治体で導入されています。 そこで、愛南町が受領委任払い制度を導入していない理由、及び、今後導入する考えはないかお聞きします。		町長

2. 一本松病院を含む今後の地域医療のあり方について 町は、一本松病院の厳しい経営状況や施設の老朽化、患者数・病床利用率の低下等を踏まえ、今後の診療体制や施設整備の方向性を検討するため、今年度「一本松病院医療再生基本構想」の策定を進めています。一方、第3次愛南町総合計画では、町民アンケートにおいて「健康・医療体制の充実」の重要度が最も高くなっています。そこで、人口減少、高齢化、医療・介護人材の不足が進む中、町民が住み慣れた地域で必要な医療・介護を受け続けられる体制をどうつくるかという観点から、以下お聞きします。 (1) 一本松病院の基本構想策定にあたり、病院単独の経営や施設整備だけでなく、町内の医療機関、在宅医療、介護等を含む町全体の医療・介護提供体制を見据え、その中で一本松病院が担うべき役割や機能を検討する考えはあるか (2) その検討にあたり、庁内の医療・介護等の関係部署が連携するとともに、既存の地域包括支援ネットワーク懇話会等を活用するなどして地域の医療・介護関係者の意見を聴き、さらに県とも協議する考えはあるか (3) 今後の方向性を決定する前に、調査結果や考えられる選択肢を町民に示して意見を聴き、その意見を方向性の検討に生かす考えはあるか	町長
3. 地域で暮らし、稼げる農業の実現に向けて	町長

農業分野においても担い手不足が大きな課題であるところ、愛南町では新規就農者支援の年齢枠を 65 歳に設定した新たな担い手支援策を今年度から開始しました。一方、担い手を維持・確保するためには、就農後に安定した所得を得られ、持続可能な生業としていくことが重要です。20 代の約半数が「将来農業をやってみたい」との調査結果もあり（JA 共済/2024 年）、県立南宇和高校農業科への県外からの入学生も期待されます。先月の高校生による「あいなん未来議会」においても地域農業の発展について高付加価値化や販路拡大が取り上げられていました。町内にはすでに様々な柑橘類をはじめ、GAP 認証取得の河内晩柑や有機米など高付加価値化の可能性を持つ農産物もあり、こうした地域資源を生かして農業所得の向上につなげていくことが求められます。

そこでお聞きします。

（１）第３次愛南町総合計画後期基本計画では「農産物の高付加価値化」や「多様な販路開拓」などを掲げているが、農業所得の向上に向けてこれらの施策を今後具体的にどのように進める考えか

（２）多様な販路の開拓を農業所得の向上につなげるためには、生産者と買い手をつなぎ、商談や継続的な取引につなげる機能が重要だが、これまでの町の取組も踏まえ、外部人材や民間との連携、庁内連携なども含めて販路開拓を継続的に担う人材・体制をどのように確保・充実していく考えか

（３）第３次愛南町総合計画では、農業施策の「めざす姿」として所得の向上を掲げている。その達成状況を把握し、高付加価値化や販路開拓などの施策が実際に所

得向上につながっているかを検証しているか。また、農業所得の向上を把握できる成果指標を設定する考えはないか